

論 文 要 旨

区 分	甲・(乙)	氏名	(印)
-----	-------	----	-----

回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の摂食嚥下障害の重症度と口腔環境との関連性

目的：回復期脳卒中患者の摂食嚥下障害の重症度と口腔環境との関連性を検討することを目的とした。

方法：対象は 2016 年 3 月 1 日～2020 年 1 月 31 日までの期間に回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中患者 299 名とした。調査項目は、年齢、性別、脳卒中の病型、摂食嚥下能力のレベル(Food Intake LEVEL Scale:FILS)、Functional Independence Measure(FIM)、Body Mass Index(BMI)、血清アルブミン値(血清 Alb 値)、Oral Health Assessment Tool(OHAT)とした。入院時の FILS により摂食嚥下障害の重症群(FILS<7)と軽症群の 2 群に分けて比較した。

結果：摂食嚥下障害の重症群は、軽症群に対して入院時の OHAT 合計スコアは有意に高値であり($p<0.05$)、FIM、血清 Alb 値は有意に低値であった($p<0.05$)。OHAT による口腔環境の評価では、重症群は軽症群に対して口唇、舌、歯肉・粘膜、唾液、口腔清掃の各スコアが有意に高値であった($p<0.05$)。多重ロジスティック回帰分析の結果、入院時の摂食嚥下障害の重症度に関連する因子は、OHAT、FIM および血清 Alb 値であり、OHAT のオッズ比は 5.170(95%信頼区間 2.239～11.941)、FIM のオッズ比は 9.806(95%信頼区間：4.164～23.095)であった。また入院時の OHAT 下位項目のうち摂食嚥下障害の重症度に関連する因子は、口唇と舌であり、口唇のオッズ比は 7.846(95%信頼区間：3.771～16.325)、舌のオッズ比は 5.751(95%信頼区間：2.850～11.605)であった。

結論：本研究の結果から回復期脳卒中患者の摂食嚥下障害の重症度に関連する因子として、入院時の FIM と口腔環境が関連していることが示唆された。